

上越地域人生の最終段階における 医療・ケア協議会の取り組み

1. 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会 の設置

上越地域の状況

【実態】

- 上越地域は高齢化率が3割を超える超高齢化社会
- 上越地域で病気や怪我で救急搬送された人の数は年間1,000人弱
そのうち、10%程度は症状が重く会話が難しい
- 命の危険が迫った時に7割の人が自分の望みを伝えることができない

課題解決
に向けて

上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会が発足
(通称：上越地域人生会議協議会)

目指すところ

- ◆ 医療・ケア関係者と行政が一体となり、人生の最終段階に向けて、本人の意思に添った医療・ケアが提供できる地域づくり
- ◆ もしもの時に医療・ケア関係者に自分の意思を伝える文化の醸成
(地域における市民啓発)



国も ACP（人生会議）を推奨しています

ACP(アドバンスケアプランニング)とは

将来の意思決定能力の低下に備えて自分が望む医療・ケアについて、
本人が家族や大切な人、医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み



2. 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会 の主な取り組み

事業展開の柱

- ◆ 医療・ケアを提供する機関、施設の体制整備
- ◆ 市民へ情報発信と人生会議の実践
- ◆ 普及啓発を図る人材の育成

- 医療関係者を対象とした人生の最終段階における医療・ケア研修会「ACPを学ぼう」
- 市民向け人生会議講演会
- すこやかに老いるための市民講座（～令和2年度）
- 啓発媒体（チラシ）の作成・配布
- 上越地域人生会議ノートを作成
- 上越地域人生会議をサポートする医療・ケア関係者の実務研修
[上越地域人生会議サポーター] [上越地域人生会フォローアップ研修]



～自分らしい生き方・逝き方のために～

人生会議しませんか

突然の病気や老いなどにより、本人の意思を確認できないままことが多い現状にあります。しかし、それが本人の考えと一致

「もしものこと」を考えたことはあ

- ・食べることができなくなったとき
- ・話ができなくなったとき
- ・回復が難しい状態になり、命の終わりが近づいたとき

わたしたちには、人生の最期を
たいか話し合い伝えていく権利



本人の希望する
の過ごし方などを
が尊重される上
生会議協議会」

病気のあるなしに関わら
たいか、自分の気持ちを見
家族や信頼できる人、医
合ってください。

このような取組は、一人ひとりの考えに
知りたくない、考えたくないという思い

くわしくは、上越地域振興局健康
<https://www.pref.niigata>

発行：上越地域人生の最
(通称：上



改訂後

自分らしい生き方・逝き方のための 上越地域 人生会議ノート

「もしものこと」を考えたことはありますか。

- ・食べることができなくなったとき、話すことができなくなったとき
- ・病気などで回復がむずかしく、命の終わりが近づいたとき

病気のあるなしに関わらず、これからどう生きたい
のか、自分の気持ちを見つめて、それを家族や信頼で
きる人、医師・看護師などの医療スタッフや介護ス
タッフなどと話し合ってください。
このノートは、**話し合いのきっかけ**となるものです。



このようなことを、考えたくないという思いも
あなたの大切な気持ちです。
無理に考えたり、書くことを強制するもので
はありません。

このノートに法律的な拘束力はありません。



くわしくは、上越地域振興局健康福祉環境部のホームページをご覧ください。

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/jouetsu_kenkou/acp.html

上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会
(通称：上越地域人生会議協議会)

